

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期継続変動 極微弱な 2/13.5 より明確な変動を 2/15.1 中心に観測
2/15.1 変動を 1/25.0 極大に対する直前変動と再認識
「対応地震 2/19 (誤差:±2) 発生の可能性有」に若干修正

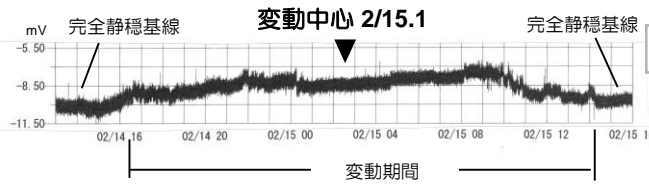


図1 図2の変動を小さくした様な変動。明らかに2/13.5より明確な変動
波形は全て八ヶ岳のCH32

◆前号2/14の情報で、2/13.5中心の極めて微弱なCH32の変動を直前変動の可能性として、対応地震は2/17 (2/17～2/20) 発生の可能性があることを報告致しました。

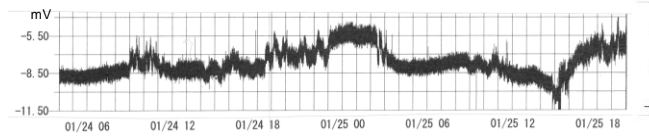


図2 1/25極大の頃のCH32の変動
図1の基線変動より極大のため大きい同型変動

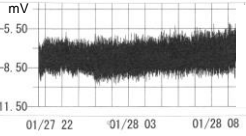
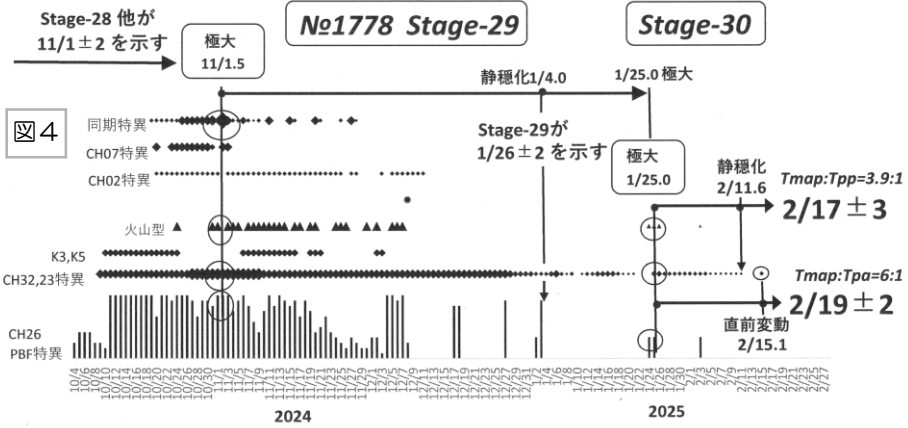


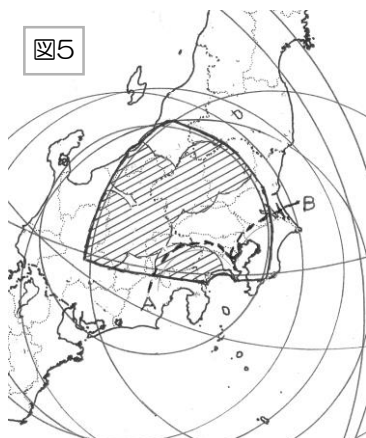
図3 1/26から上波形の様な特異変動に変化し2/11.6に静穏化

◆しかしその後、図1のとおり2/15.1中心に2/13.5中心の微弱な変動より、明らかな変動が観測されました。変動形態も図2の1/25極大のCH32の変動形態をそのまま小さくした形態です。2/13.5中心の極めて微弱な変動は完全静穏基線ではありませんが、直前変動と誤認して報告致しました。申し訳ございません。



◆図1の変動を前号図4の基線と比較して頂きますと、明らかに2/15.1中心の変動の方が明確であると認識して頂けると思います。従って、本日現在段階では1/25極大に対する直前変動は2/15.1に修正させていただきます。これにより Tmap:Tpa=6:1 経験則から対応地震発生は2/19 (誤差±2) の可能性と修正されます。

◆今後の観測で現推定を修正する必要がある変動が観測された場合は続報させていただきます。



●推定領域：図5の太線領域内＝大枠推定領域
図5斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：2月19日 (誤差:±2日)
(※仮に2/17～21に発生無い場合は 3/18±3 の可能性が考えられる。その場合は続報)

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)

A～B孤線以南の可能性は極めて低い

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。